

1 学校の教育目標および校内研修の柱について

(1) 学校の教育目標

『主体的に考えて行動し（自主）、
粘り強く学んで新しい価値を見だし（創造）、
他者と協働しながらたくましく生きる（友愛）生徒の育成』

(2) 校内研修の柱

- 自己表現力を育成するための工夫
- 自己指導能力を育成するための工夫

<本年度の重点>

昨年度の学力調査の結果から、本校の生徒は、題意を的確につかみ、必要な情報を取り出し、説明することに課題があることがわかった。教職員・生徒へのアンケート結果をみても、自分を表現する力やコミュニケーション力に課題を感じているという声が多く上がっている。この現状を改善するために、自己表現力を育成することを本校の研修の柱の一つとしたい。生徒の自己表現力を高めるために、自分の考えを話す、書くなど表現する場を各教科において授業の中で設定し、必然性のあるペア・グループ活動を授業の中に位置づけるとともに、情報の取り出しを意識した授業づくりを行っていきたい。

また、自己指導力の育成のために振り返りに重点を置いた授業実践をすすめていきたい。

以上のことを踏まえ、各教科の特性を考慮しながら授業実践をすすめていく。

2 推進方法について

①学力向上対策「本校の3つの重点」に基づく授業実践

- ・互見授業に取り組み、指導力向上を図る。
- ・近隣中学校（米水津中学校）と連携した教科部会の設定。（専門教科の互見授業の設定）
※鶴見中の授業を公開（2回）・米水津中の授業を参観（1回）・定期テスト問題の交流
松浦小学校との互見授業、乗り入れ授業
- ・授業者は「情報の取り出し→思考・判断・表現」を意識した授業に取り組む。
- ・授業者は単元計画に基づいた「必然性をもったペア・グループ活動」を行う。
- ・授業者は、毎時間「振り返り」を行い、見取りを行う。

②生徒と共につくる授業づくり

- ・授業づくり集会を学期に1回行う。
- ・学期に1回の生徒による授業評価を実施し、次学期の授業改善テーマを設定する。

③「書く力」の育成

- ・鶴中タイムでコラム学習を隔週1回実施する。

④「表現する・思いを伝える場」の保障

- ・授業者は、単元または1単位時間で「表現する場」、各自の「思いを伝える場」を設定する。

⑤目標設定と振り返りの充実

- ・「未来をえがくキャリア・ノート」を活用した学習面・生活面等の目標設定や振り返り

⑥互いのよさを見つけ認め合う集団づくり

- ・ハイパーQU（年2回）の実施と、振り返り
- ・人間関係づくりプログラム（週1回）の実施

⑦家庭での取り組みと地域への貢献

- ・「家庭学習強化週間」（定期テストの10日前後）を設定し、家庭学習の習慣化を図る。
- ・問題データベースとタブレット端末用学習教材の活用
- ・外部指導講師の招聘と活動の振り返り

3 互見授業計画

| 校内研修の計画 | | |
|-----------|----------------|--|
| 5月21日 | 第1回校内研修 | 校内研修について |
| 6月25日 | 第2回校内研修 | 指導案審議(数学・音楽・道徳) ※指導主事招聘 |
| 7月9日 | 全体連絡会 | 道徳指導案審議(山田先生) |
| 7月14～16日 | 全体互見授業 | 全体互見授業(数学・音楽・道徳) |
| 7月16日 | 第3回校内研修 | 事後研(数学・音楽・道徳) ※指導主事招聘 |
| 9月9日 | 道徳部会公開授業(山田先生) | 道徳 |
| 9月17日 | 第4回校内研修 | 授業規律、学力向上プラン共有 服務規律研修 |
| 10月29日 | 第5回校内研修 | 2学期の取り組み、ICT研修 指導案審議(佐藤先生) |
| 11月某日 | 初任研授業(佐藤先生) | 教科 |
| 11月26日 | 第6回校内研修 | 指導案審議(理科・保体・英語・国語) |
| 12月15～17日 | 全体互見授業 | 全体互見授業(理科・保体・英語・国語) |
| 12月17日 | 第7回校内研修 | 事後研(理科・保体・英語・国語) ※指導主事招聘 |
| 1月21日 | 第8回校内研修 | 指導案審議(佐藤先生) 授業規律、学力向上プラン共有 ICT研修 |
| 2月某日 | 初任研授業(佐藤先生) | 道徳 |
| 3月11日 | 第9回校内研修 | 校内研修のまとめ 学力向上プランの共有 |

4 年度初めの確認事項

- 授業規律の徹底 ※教員側もチャイム前に必ず教室に入ります。
- 「授業の流れ」の確立及び「生徒指導の三機能」を位置づけた授業の実施※マグネットの使用
- 授業改善に係る「本校の重点123」（※別紙参照）を意識した授業を行う。
- 教室掲示について ※別紙